

## 景観・街中(空き家)まちづくりセッション

テーマ

# 空き家等の適正管理と利活用による景観の向上

運営 | 景観・街中(空き家)まちづくり部会

近年の人口減少や住宅の老朽化、社会的ニーズの変化により、利活用されない空き家が増加しており、それが適切に管理されず放置されています。そのため、周辺環境や景観に悪影響を与えていますので、早期に空き家を利活用するか、または除却することが必要です。しかし、その方向性を決定するまでには相当な期間を要する物件が多く、その間の維持管理が重要となります。

昨年のさいたま大会では、「空き家等の利活用における建築士の役割」をテーマとし、空き家に関する研修会を実施された先進県からの報告や空き家流通促進のための協議会や他の専門団体との連携事業についての事例を学び、建築士、建築士会として何ができるかを話し合いました。

また、本年2月に開催された「第27回まちづくり会議」においては、空き家に関する問題について話し合い、神戸市でのその取り組みや

日時…9月21日(土) 10:00~12:00

会場…函館アリーナ 1F 武道館C

定員…80名(予定)



樺原市空き家等対策プラットフォーム(13団体)調印式

奈良県での空き家プラットフォームの設立などを学びました。

今大会では、空き家の放置が周辺の環境や景観に悪影響を与えている現状を踏まえ、「どうすれば適切な管理が維持できるのか。」「どうすれば空き家を如何に早く流通させることができるのか」また、「除却後の空き地の景観をどのように、誘導するのか」について、建築士のまちづくりとして議論を進めたいと考えています。

## 福祉まちづくりセッション

テーマ

# 全国の観光バリアフリーと建築士について

ハード整備とソフト対応のわかる建築士の育成

運営 | 福祉まちづくり部会

全国のバリアフリーの施設整備は、各自治体の福祉のまちづくり条例により一定の成果を上げています。ところが、高齢者や障がい者の身近な小規模店舗や既存施設(社寺等含む)は取り残されたままの状態、大きな課題となっています。また、条例でハード面の整備が進む一方、ソフト面の対応の遅れが問われてきていますし、オリンピック・パラリンピック他海外から訪れる観光客などへの対応も迫られています。

高齢者や障がい者、外国の方々安心して訪れることができる観光地づくりの取り組みとして、10年ほど前から全国各地で活発化している「観光バリアフリー」の取り組みは、観光にとどまらず、日常の身近な小規模施設や社寺等既存施設のバリアフリー化にも繋がります。しかもハードだけではなくソフト対応にも広がり、旅行者だけでなく、

日時…9月21日(土) 10:00~12:00

会場…函館アリーナ 1F 多目的会議室B

定員…80名(予定)



各地で取り組みをみせる観光バリアフリー

地域に住む人たちにとっても大きなメリットとなると捉えられています。多くの人たちが訪れること、街に出て利用することこそバリアフリー化推進の確かな道なのです。

われわれ建築士の役割として、地域の観光・宿泊・飲食・交通施設等の点・線・面的なバリアフリー調査の企画・実施・報告、改修のアドバイス等が考えられますが、そのためには、ハード整備とソフト対応のわかる建築士の育成と福祉まちづくり活動への参画が求められます。

そこで、福祉まちづくりセッションでは、「観光バリアフリー」の推進元である国土交通省観光庁の方をお招きして、皆さんと学び、語り合えるセッションを考えています。全国の建築士の皆さん、あなたの地域の「観光バリアフリー」の力となるべく、是非ともご参加下さい!